

基準値超えの農薬検出!気になりますね

輸出食品を含め、いろいろな農薬検出について報道されることがあります。しかし、タイトルだけ読んでみると不安だけが伝わって、本当のところがよくわからないことが多いのが実情です。最近も関東のシュンギクから基準値58倍超の殺虫剤が検出されたと報道がありました。しかし、文末には「健康への影響は極めて低い」と書いてありました。どういうこと?



農薬は使わない作物には基準値がない?

農薬は厳しい安全性チェックを行った後、使う予定の作物に農薬を散布し、収穫した際にどれくらい農薬が残留するか検査します。残留基準値は、その農薬が残ったいろいろな種類の作物を食べたとしても大丈夫な量として決められています。しかし農薬は、その作物に必要な場合だけ使うため、使わない作物には残留基準を決める必要がなく基準値がありません。そのかわり、「一律基準0.01ppm」が適用されます。これはポジティブリストというやり方で、食品添加物も同様な仕組みで運用されています。

正しく使えば基準値を超えることはない

ここで大切なことは、農薬を使ってよい作物には基準値が設定され、それを超えないような使用方法が決められているので、基準値を超えることは通常あり得ないということです。もし基準値を超えた場合は、生産者の農薬使用に対する知識不足が厳しく問われ、せっかく作ったものは廃棄されます。もし組合単位で出荷していたらその組合からの出荷が当分止まるので、他の生産者にも影響があります。基準値の2倍、5倍超過などの違反実態が分かたら、使用方法を含め違反原因を追究し、二度と起こらないような是正措置が取られます。

「残留基準値」と「一律基準値」は意味が異なる

農薬を使うことが認められていない作物から農薬が検出された場合、それは使用方法のミス等ではなく、生産者の適用確認のチェック

ミス、もしくは昔は使用可能でも今では使用不可となったことを知らなかったことなどが原因で発生します。また、隣の作物で使用した農薬が風で流れて付着して検出されるドリフト事例もあります。この場合、比較される基準は「一律基準」です。これは農薬の使い方などを考慮した基準ではなく、その農薬を検出してはいけなことを検証する最低濃度なのです。このように農薬を使う作物の「残留基準値」と、農薬を使ってもいい作物の「一律基準値」は意味が全く異なります。

一見矛盾する「健康への影響は極めて低い」の意味

最初の58倍の基準違反は、検出された農薬を使ってもいい作物だったため「一律基準0.01ppm」という基準値となりそれを超過したという例で、実際に数値としては0.58ppm検出されました。実は検出された農薬に対して基準値がある作物では、0.58ppmより高い基準の作物も多くあり、その場合は別に問題となりません。また、たとえ食べたとしても健康に影響を及ぼすことはないと判断されているので、実際の報道にあった文末のような、「健康への影響は極めて低い」という一見矛盾する表現となるのです。

最後に

このように、基準値のある作物に対して基準値の何倍農薬が検出されたかという比較はそれなりの意味がありますが、基準のない「一律基準」との比較で「何十倍も検出された」という不安だけが先行する報道はあまり意味がないことを理解いただければと思います。



新商品

3月3週よりデビュー! グリーンライフリサイクルペーパー パッケージリニューアル!

コープあいちのキャラクター“ほこちゃん”がパッケージに入ったグリーンライフリサイクルペーパーが、この度コープぎふのキャラクター“れんげファミリー”とコープみえのキャラクター“みえっぴー”を追加してパッケージリニューアルしました!

商品紹介

組合員の声から生まれた、再生古紙100%の環境に配慮したトイレトロールです。牛乳パック類配合で柔らかな肌触り。50mダブルと長巻タイプでミシン目も入っています。

グリーンライフ
リサイクルペーパー
12R
本体価格 598円
税込価格 657円
次回予定 4月3週



健康講座

今月のテーマ 日々、健康で過ごすため

今月の
先生紹介

ひろせ
廣瀬 功氏
瑞穂市
広瀬内科クリニック



はじめに

健康で日々を過ごすためには、どんなことが必要でしょうか。

日々を健康で過ごしたいと誰もが願いますが、人の致死率は100%であり、いつかは最後を迎える日を待つこととなります。

普段、人は自分の死を、特に若い頃には全く考えません。

大概の人は、人生の後半の折り返し地点を過ぎ60歳を超えた頃より体力も低下し、いろいろな疾病に罹患するようになり、その対応に追われることとなります。

高血圧症、糖尿病、脂質異常症など、常日頃お目にかかる内科系疾患に加え、白内障、緑内障など眼科の疾患、前立腺肥大症、婦人科系疾患など多岐に渡り、最新の医療技術の進化の恩恵を受けるようになります。

社会の家族構成が大きく変わり、一人暮らし、二人暮らしの方が増え、昔のように祖父母世代と同居している世帯はめっきり減り、10家族のうち1、2家族に減りました。

核家族化の拡散に伴い、学校現場のみならず職場においても、昔はあまり話題にならなかった、いじめ、不登校などの問題が浮かび上がり大きな問題となっています。

心のあり方が問われる時代に入っています。

日々を健康に過ごすには

日々の暮らしを大切に、社会の最小単位である家庭、家族をきちんとすることが、誰もが望んでいることです。

それがどうして破綻しているのでしょうか。

原因は様々あると思われますが、個々人のエゴのぶつかり合いから問題は発生していくので、どうしたらぶつかり合いを回避できるのでしょうか。

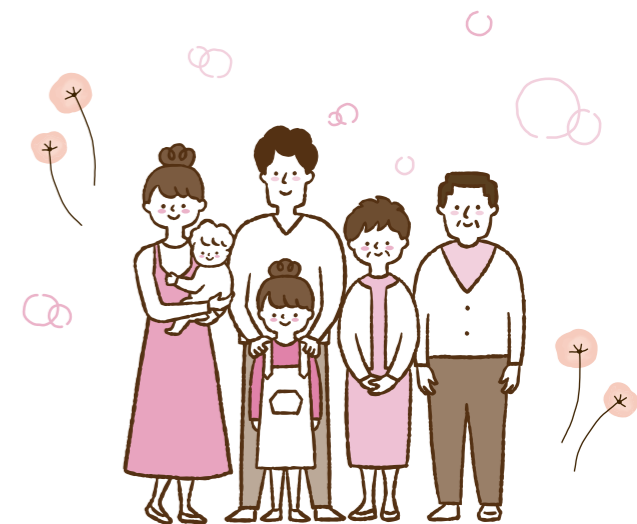
互いの譲り合いの精神、相手を認めることから始めてはいかがでしょうか。

簡単なことではありますがなかなかできないことは、朝、顔を合わせたら、互いにきちんと名前を呼び合い、きちんと挨拶する習慣をつけることです。

このような習慣を身に付けることから始めてみてはいかがでしょうか。

家庭がしっかり機能してくれば社会の安定性は増し、暮らしやすい社会になっていくのではないのでしょうか。

小さなことから始め大きな流れにしたいものです。



わたしの
ひとこと

何年か振りに誕生日ケーキを焼きました。まあまあ大人の息子へのケーキでしたが、やっぱり嬉しそう良かったです。子どもが小さい頃はとても余裕がなく、1、2度しか作ったことがなかったのですが、充実した良い誕生日になりました。(60代/恵那市 ままさん)

不思議なことに30数年苦しんでいた花粉症の症状が数年前から出なくなりました。ずっと服用していた薬を恐る恐るやめたのに出ないんです…ヤッター!でも今度は主人が花粉症デビューしてしまいました…トホホです。(60代/多治見市 ミーちゃんさん)

わたしの
ひとこと

